

# 「災害・犯罪等からの安心・安全」きょうとチャレンジ

<b>基本方針</b>	災害や犯罪等から府民の命と財産を守るため、A I等の活用によりハード・ソフト一体となった最先端の危機管理・安心安全体制を構築する
<b>到達目標</b> (数値目標の候補)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■災害時声掛け隊の人数を●人養成する(2019年創設)</li> <li>■刑法犯認知件数を●件以下に減少させる(2018年：16,821件)</li> <li>■交通事故死者数を●人以下に減少させる(2018年：52人)</li> </ul>
<b>主な重点・新規方策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■<b>危機管理センター設置等、防災対応力強化</b>                      危機管理センターを設置し、オペレーションルームの常設、国等の応援機関の専用スペース・リエゾン室の確保、4 振興局へのサブセンターの設置等、京都市及び府内市町村対策本部とのネットワークを強化します。また、府・市町村の災害発生時対応業務について、図表等を用いて視覚的にも分かりやすく標準化するとともに、総合防災情報システムの整備、国の I S U T (災害時情報集約支援チーム)との連携体制の確立、備蓄管理システムの整備、防災情報の多言語発信、洪水氾濫状況等のリアルタイム配信など、最先端の危機管理体制を構築します。</li> <li>■<b>逃げ遅れゼロ・プロジェクト</b>                      府内全ての自主防災組織における水害等避難行動タイムラインの策定と「避難時声掛け体制」を確保するとともに、災害危険情報の対象エリアを精緻化し、危険度の高いエリアに絞ってプッシュ配信することにより、情報の信頼性を向上させます。</li> <li>■<b>A I 活用「氾濫早期予測システム」</b>                      降雨情報(X-R a i n)とマイクロな地形情報、実績水位をもとに早いタイミングで中小河川の洪水を予測するシステムを開発し、防災情報に実装します。</li> <li>■<b>防災基盤の整備</b>                      桂川や由良川の改修の促進、既存ダム等の洪水調節機能の最大化に取り組むとともに、老朽化したため池の適切な維持管理、防災重点ため池の浸水想定区域図の公表、ため池ハザードマップの作成など総合的な防災対策を講じます。                      桂川右岸流域下水道事業「いろは呑龍トンネル」について、令和2(2020)年度の暫定供用・令和5(2023)年度の完成に向け、南幹線及び呑龍ポンプ場の整備を進めるとともに、流入量・貯留量の予測精度を上げ、より正確な浸水予測情報を発信し、貯留機能と流下機能を最大限に発揮させる運用を確立します。</li> <li>■<b>A I 活用「予測型犯罪防御システム」</b>                      犯罪の発生情報を集約、A I等を活用して情報の分析機能を強化するなど、予測型犯罪防御システムの高度化を図り、先制的なパトロールや効果的な情報発信等により、更なる犯罪抑止対策を推進します。</li> <li>■<b>子どもの交通安全「安心空間」確保プロジェクト</b>                      ▶ 通学路やお散歩コース等の園外活動における交通事故防止のため、路肩の拡幅やポールを設置するとともに、地域、保育所・認定こども園・幼稚園、学校、行政、警察等が連携して、子どもが安心して通行できる交通環境の整備を推進します。                      ▶ 車両運転者への対策として、交通安全教室等あらゆる機会を活用するとともに、安全運転サポート車や急発進抑制装置装着の技術開発や普及を進めます。</li> <li>■<b>G I S 活用・交通事故防止対策</b>                      G I Sを活用した交通事故の発生原因等の多角的な分析に基づき、原因別に重点を絞った街頭活動の展開や自転車通行帯等の道路交通環境の整備等、地域の交通実態に即した交通事故防止対策を進めます。</li> </ul>

